プレスリリース　　トーヨーキッチンスタイル＋建築家・高橋啓　２０１９年５月１５日

新・大阪長屋展

大阪長屋を現代化した、敷地面積１６坪から５０坪までの１８サイズの敷地の、大阪の都市型住宅のご提案

令和時代の新しい大阪の都市型３階建住宅20プラン[1戸建住宅]

[期間] ６／１３（木）～６／３０（日）　※水曜日は休館日
[会場] トーヨーキッチンスタイル大阪ショールーム
[所在地] 大阪市中央区久太郎町４－１－３　大阪センタービル１階
[電話] ０６－６２４１－１０４０
[時間] １１：００～１９：００
[料金] 入場無料

大阪・北堀江に事務所を構えて２０年目になる建築家・高橋啓が、[大阪長屋] を研究・分類・現代化して、新しい大阪の都市型３階建住宅、＜新・大阪長屋＞を２０タイプ製作致しました。下記の大阪長屋の３タイプ①②③型を現代化して、敷地面積１６坪～５０坪まで、２坪刻みで１８サイズの敷地に、全２０タイプの、令和時代の自然豊かな大阪の新しい都市型３階建住宅をつくり、２０タイプの平面図・説明図・写真パネル・１／５０スケールの模型（次頁参照）の展示を行います。大阪の敷地面積１６～２４坪の敷地の都市型住宅を、新・大阪長屋の「小さな豪邸」と名づけ、比較的コンパクトな敷地でも大阪の都市部で自然豊かな＜住まい＞に暮らす方法をご提案致します。敷地面積２６～５０坪のプランについても、大阪長屋を正統的に、また、ダイナミックに現代化した大阪の都市型住宅をご提案致します。

会場となる『トーヨーキッチンスタイル大阪ショールーム』には、この『新・大阪長屋』に合う、様々なレイアウトのキッチンと、それに合わせたダイニングやリビングのインテリア製品を多数展示しています。外観だけでは無く、実際にどんな暮らしが待っているのかを、体感出来るキッチンとインテリアのショールームです。

＜お問い合わせ先＞
展覧会の内容について：高橋啓（建築家）／C一級建築士事務所(ｔｅｌ：06-6578-8201)
※展覧会の模型・図面等の素材は、すべて揃っておりますので、会期以前に取材をお受けすることが可能です。
会場等について　　：株式会社トーヨーキッチンスタイル大阪ショールーム　担当者：原(ｔｅｌ：06-6241-5010)

新・大阪長屋のテーマ

1 大阪の＜衣・食・住＞の「住」にも、面白さを追求する

令和時代に、大阪人が日々生み出している「笑い」も、元禄時代（１６８８年～）から始まった大阪の上方演芸の歴史に、どこか裏づけされているところがあり、確たる歴史に基づいています。日々の暮らしに「笑い」を求めて続けてきた大阪人が、日々暮らす＜住まい＞に、「笑い／面白さ」を求めることがなくなって、相当な時間が経過してしまったように感じています。平成の時代が進むにつれて、合理的な＜住まい＞ばかり建てられるようになり、大阪人にとって＜住まい＞は、面白くならないもののように感じ始めているのかも知れませんが大阪の＜住まい＞も、明治・大正・昭和の時代に大阪独自の進化も遂げた [大阪長屋] をお手本にして、今の時代にふさわしい＜住まい＞に、ダイナミックに現代化することで、大阪の都市型住宅を、どのようにでも面白くすることができると考えています。
令和時代は、大阪のような大都市に、どのようにすれば住宅に人が本当に豊かに住めるかを、追求し続けていく時代だと考えています。

2 大阪の「住」の歴史を昭和から令和の時代につなぐ

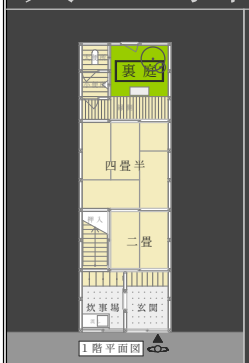
大阪の都市住宅の原型は、大阪長屋です。１９４１年（昭和１５年）に実施された調査では、大阪市の長屋建の比率は９４．８６％であり圧倒的な比率で長屋が多く、この時代のほとんどの大阪の人々が、長屋に住んでいたことになり、大阪長屋が大阪の都市住宅の原型であることが分かります。大阪長屋は、昭和の戦後から新たに建てられることがなくなり、現在は衰退の一途を辿っています。つまり、大阪長屋は、平成の時代に受け継がれることも、進化することもありませんでした。平成の時代に、建物の高層化は進みましたが、都市で豊かに住むということは、追及されてこなかったように感じています。平成の時代に発展することのなかった大阪長屋を、令和の時代に発展させて大阪長屋の歴史の流れを、昭和から令和へと丁寧に繋いで、大阪の＜住まい＞（「住」）を発展させていきたいと考えています。

3 大阪の住まいに「庭」を取りもどして、３階建の立体的な庭をつくる

大阪長屋は、昭和の戦後、団地へと切り替えられていきました。団地が、中層・高層・超高層マンションへと発展し、平成の時代にタワーマンションが数多く建てられて、長屋→団地からの進化としては、ひとつの完成型ができたように思われますが、タワーマンションで暮らすことが本質的に豊かなことであるとは、それほど多くの人が考えていないように思われます。令和時代の新しい大阪の住まいを考える上で、もう一度長屋から団地に移行する過程で失われたものを見極め、令和時代の大阪の本質的な住宅のかたちを考える必要があります。
その失われた最たるものが、大阪長屋の「庭」だと考えています。大阪長屋には、下記の①②③の３タイプがあり、すべてのタイプに庭がありました。３タイプの大阪長屋を「庭」で分類して、「庭」を軸にして、大阪長屋を現代化しています。
＜新・大阪長屋＞は、大阪長屋の①②③の３タイプを受け継いで現代化した新しい１戸建の３階建住宅の提案であり、住宅と庭の [両方] を３階建に立体化し、１・２・３階のすべての階から自然の庭の風景を眺められる、大阪の都市型住宅を２０プラン、ご提案しています。
※大阪長屋の③通り庭型は、③－１～３の３タイプに分けて発展させ、最後に、全く新しい④未来型まで展開しています。

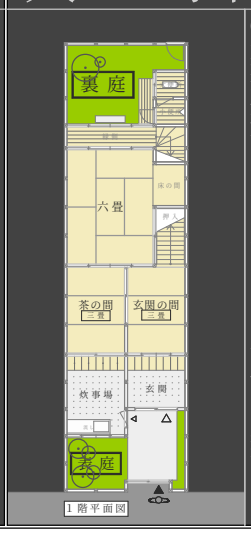
大阪長屋の３タイプ（全タイプ）

①裏　庭　型
大正時代＜前半＞



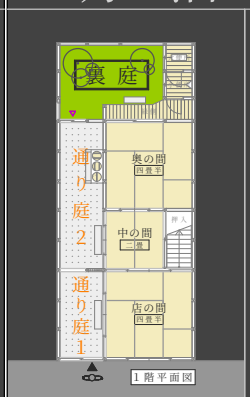
①裏庭型
大正時代になると、前面道路側が玄関と炊事場で構成された型が現れる。玄関と炊事場は土間になっている。
[裏庭] は、敷地奥側に設えられている。
下水ができて、住宅設備等が発展して、明治時代につくられていた③通り庭型の [通り庭] をつくる必要がなくなり、この型になった。

②裏庭＋表庭型
大正時代＜後半＞



②裏庭＋表庭型
大正時代後半になると敷地奥側の [裏庭] に加えて、前面道路側に塀で囲んだ [表庭] が設えられたタイプが現れる。裏庭と表庭の２つの庭があることにより、眺められる庭の風景が２倍になり、家の中に風が通るようになった。この塀に囲まれた表庭のある大阪特有の長屋ができて、大阪長屋は、建築として格段に進化した。表庭はいくつかのタイプがあるが、この塀で囲んだ型が、現代の大阪の都市住宅として現代化するのに、最もふさわしい型である。

③通　り　庭　型
明　治　時　代

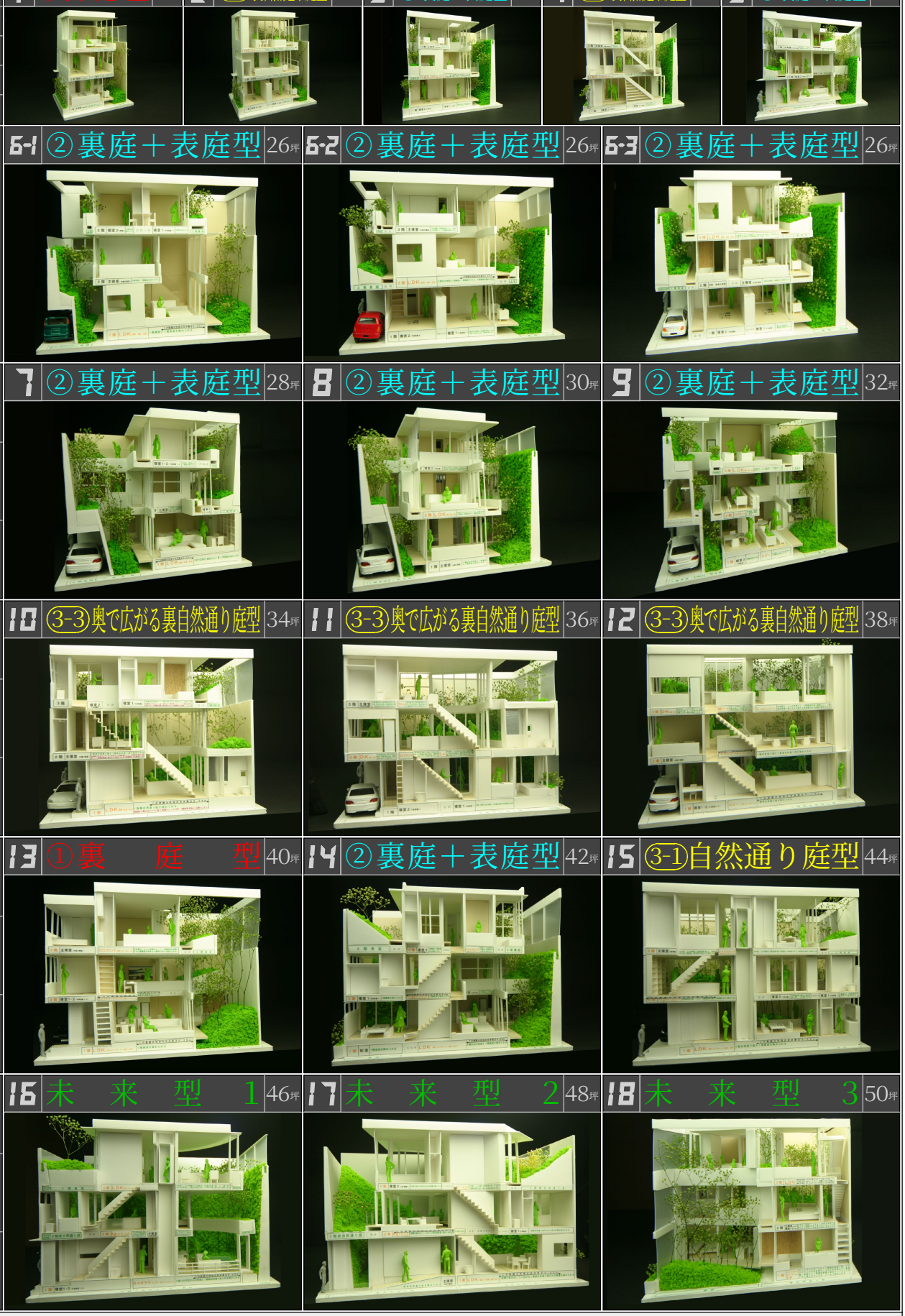


③通り庭型
明治時代は、通り庭型が建てられていた。
玄関から裏庭まで [通り庭] があり、敷地奥側に [裏庭] がある。
通り庭は、玄関から裏庭までの、土間の半外部空間のことであり、人の出入りや、物の搬入などのために、欠かせない空間であった。
通り庭は、炊事場でもあり、へっつい（かまど）・走り（流し）・水桶・燃料等が置かれていた。
裏庭は、「住戸には、建坪４分の１以上の余地をとること」という規定があり（明治４２年「大阪府建築取締規則」）、この決まりにより長屋の形態が規制され、住戸に１／４以上の庭（あいている場所）をつくる必要があり、裏庭が設えられていた。

新・大阪長屋

敷地面積 16坪 → 敷地面積 50坪 の20プラン

型	敷地坪数					
最小型	16坪	1 ①裏庭型 16坪	2 ③-1裏自然通り庭型 18坪	3 ②裏庭＋表庭型 20坪	4 ③-1裏自然通り庭型 22坪	5 ②裏庭＋表庭型 24坪
	18坪					
	20坪					
	22坪					
	24坪					
小型	26坪	6-1 ②裏庭＋表庭型 26坪	6-2 ②裏庭＋表庭型 26坪	6-3 ②裏庭＋表庭型 26坪		
中型	28坪	7 ②裏庭＋表庭型 28坪	8 ②裏庭＋表庭型 30坪	9 ②裏庭＋表庭型 32坪		
	30坪					
	32坪					
進化形の中型	34坪	10 ③-3奥で広がる裏自然通り庭型 34坪	11 ③-3奥で広がる裏自然通り庭型 36坪	12 ③-3奥で広がる裏自然通り庭型 38坪		
	36坪					
	38坪					
大型	40坪	13 ①裏庭型 40坪	14 ②裏庭＋表庭型 42坪	15 ③-1自然通り庭型 44坪		
	42坪					
	44坪					
未来型	46坪	16 未来型 1 46坪	17 未来型 2 48坪	18 未来型 3 50坪		
	48坪					
	50坪					



大阪市内の１戸建住宅の平均敷地面積は２５．８３坪で、最も近い敷地面積２６坪のプランを、新・大阪長屋の［標準型］と考えて、敷地面積２６坪の同一敷地で、３階建住宅の１階・２階・３階にＬＤＫ（居間・食堂・台所）のある３タイプをすべてつくっています。